

（3）
樂は一切使っていない。
が、原作の振り付けや音
楽は切っていい。

現代の社会情勢を反映し人間の実存を問う



「緑のテーブル2017」©阿波根治

母の大きな愛や時代の流れを象徴する「風」を
躍る79歳の舞踏家・大野慶人が「戦争は悲惨なものだ」と述懐して始まる物語は、どこでも見かけられる平凡だが何となく気味の悪い男の「死神」に導かれるように進む。

アノサンブル・ゾネ
反戦を希求する魂の叫びが静かに現出した。愛知県芸術劇場小ホールで開催の「ミニセレ」シリーズの第一弾として、振付家でダンサーの岡登志子が主宰するアンサンブル・ゾネが演じた「緑のテーブル」は、ドイツ表現主義舞踊の権威クルト・ヨースが1932年に発表したメッセージ性の強い「反戦バレエ」だ。ドイツ留学でヨースのメソッドを学んだ岡の創作ダンスはヨース作品からインスピレーションを得てはいるが、原作の振り付けや音楽は切っていい。

現代の社会情勢を反映し人間の実存を問う



「緑のテーブル2017」©阿波根治

母の大きな愛や時代の流れを象徴する「風」を
躍る79歳の舞踏家・大野慶人が「戦争は悲惨なものだ」と述懐して始まる物語は、どこでも見かけられる平凡だが何となく気味の悪い男の「死神」に導かれるように進む。

舞台批評

</

